

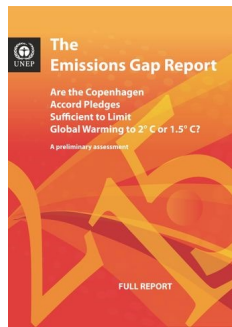
排出ギャップ報告書2022

残された時間はわずか—気候の危機は、社会の急速な変革を求める

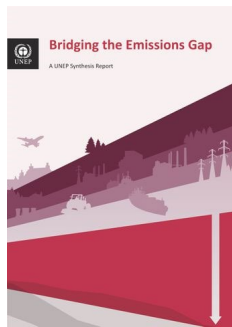
気候変動とエネルギー領域 プログラムマネージャー
津久井 あきび

『排出ギャップ報告書』とは

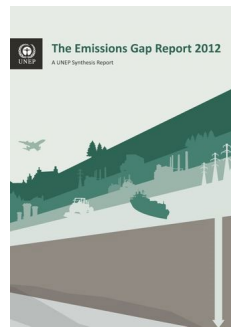
- 国連環境計画（UNEP）が2010年以降毎年出版し、2022年の報告書は第13版。
- 世界の気温目標とは、「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ2°Cより十分低く保ち、1.5°C以内に抑える努力を追求する」こと。
- 排出ギャップとは、「目標達成に必要なGHG排出削減量」と「各国が掲げる排出削減目標」の差。
- 気温目標達成に向けた世界全体での進捗状況及びG20メンバー国の進捗状況を追跡している。
- 2022年の報告書の焦点は、COP26以降の野心と行動における進展。



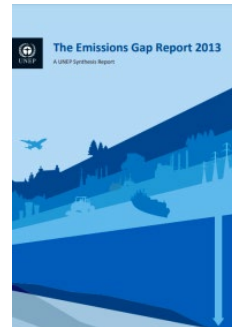
2010



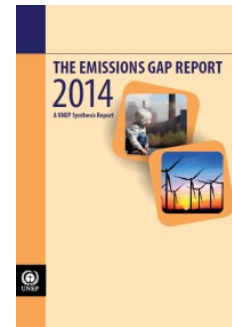
2011



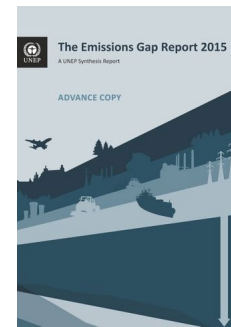
2012



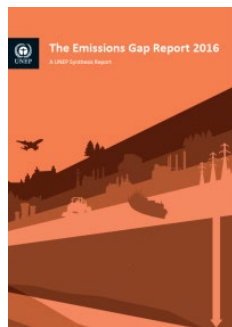
2013



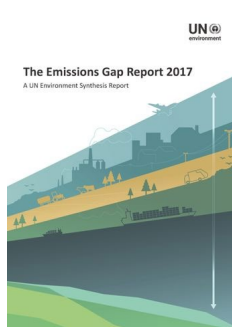
2014



2015



2016



2017



2018



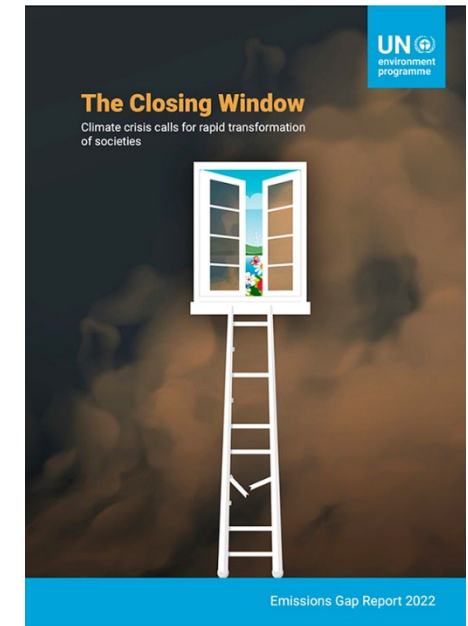
2019



2020



2021



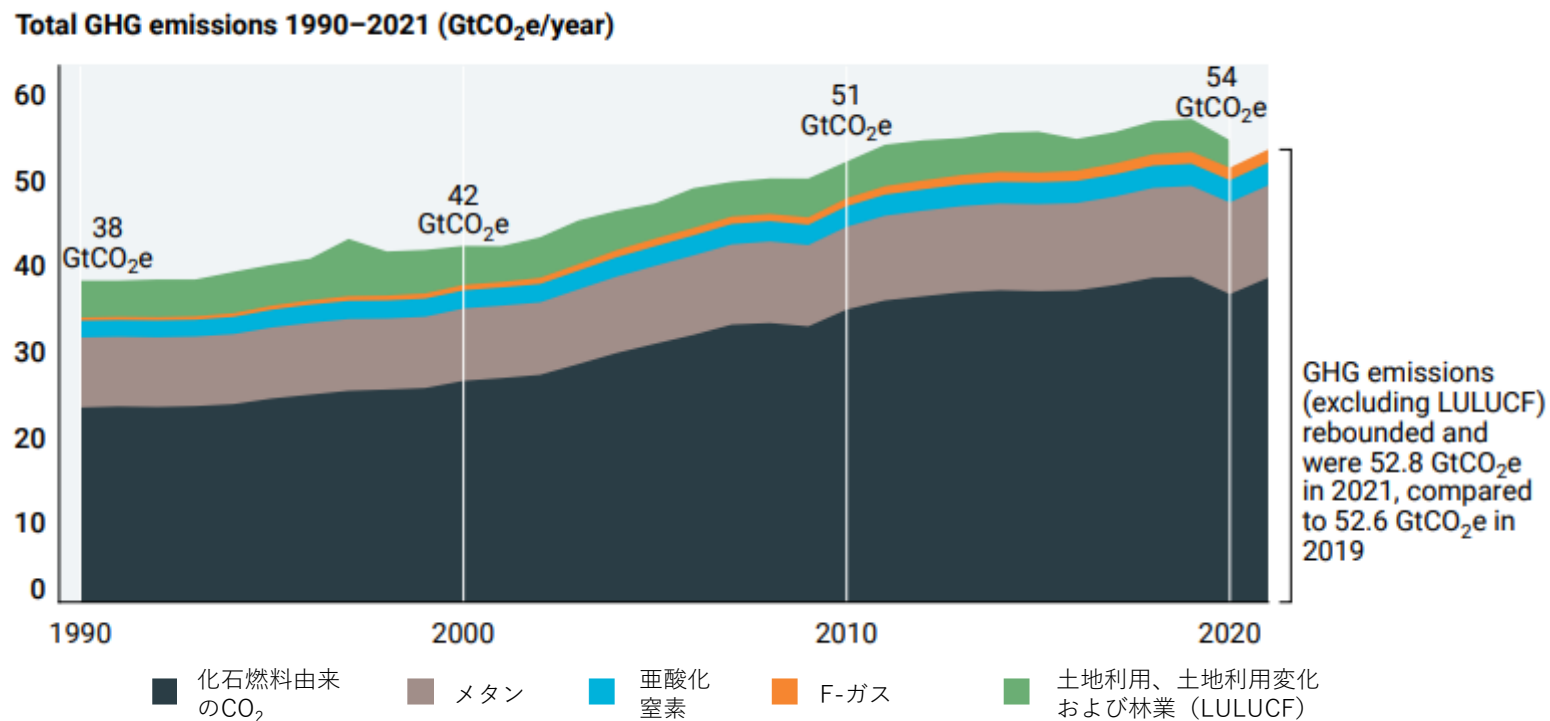
2022

残された時間はわずか一気候の危機は、社会の急速な変革を求める

『排出ギャップ報告書2022』のメッセージ

- 1 地球規模の気候危機に対する行動が不十分であり、社会の急速な変革を求める。
- 2 COP26以降、2030年に向けた膨大な排出ギャップを縮めるための進捗は限定的である。
- 3 漸進的な変化は選択肢ではない。経済全体にわたる広範囲な変革が必要である。

2021年に世界のGHG排出量を新記録を達成する可能性がある

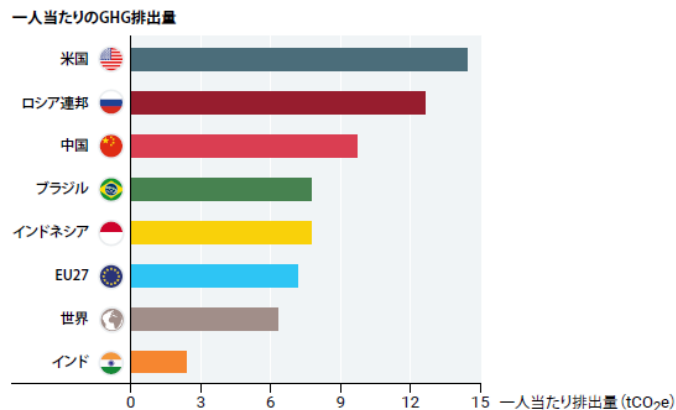
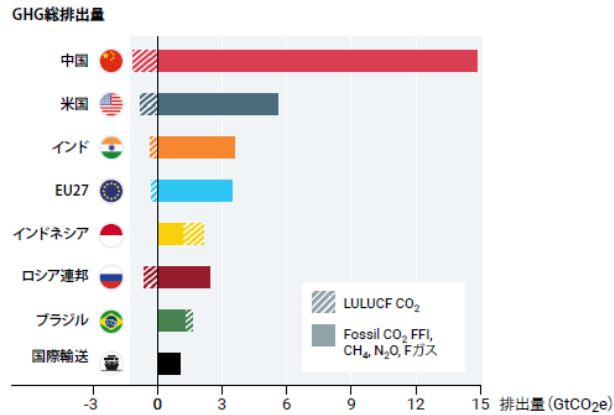


世界全体のGHG総排出量の傾向

- 2019年から2020年にかけて4.7%減少。新型コロナウイルスへの世界的な対応が前例のない短期間での排出削減につながった。
- 2021年の世界のGHG排出量の暫定推定値は52.8Gt（528億tCO₂換算）。2019年と比較してわずかに増加した。
- 2021年の世界全体のGHG排出量の合計が2019年の記録と同等かそれをさらに上回ることを示唆している。
- 排出量はここ10年増え続けているが、増加率は過去10年と比較して鈍化している。

GHG排出量は、地域・国・世帯によって大きなばらつきがある

図 ES.1 2020年における主要排出国のGHG総排出量と一人当たりのGHG排出量(インベントリに基づくLULUCFを含む)



2020年の世界のGHG排出量のうち：

- 上位7か国と国際輸送からの排出量が55%
- G20メンバーを加えると排出量の75%

一人当たりの排出量は、国によって大きく異なる

- 2020年の一人当たりのGHG排出量の世界平均は6.3tCO_{2e}
- 世界平均を上回る国：米国（14tCO_{2e}）、ロシア（13tCO_{2e}）、中国（9.7tCO_{2e}）、ブラジル・インドネシア（7.5tCO_{2e}）、EU（7.2tCO_{2e}）
- 世界平均を下回る国：インド（2.4tCO_{2e}）、後発開発途上国（2.3tCO_{2e}）

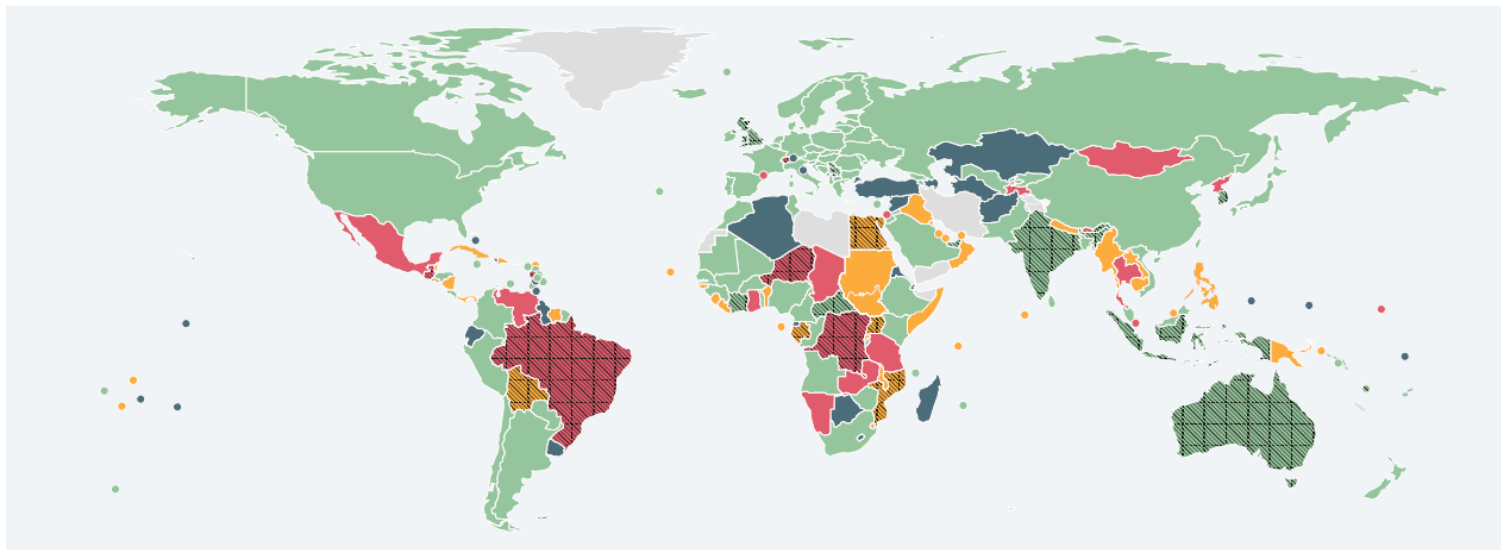
消費に基づく排出量も国家間および国内で非常に不平等である

- 下位50%の世帯は一人当たり平均1.6tCO_{2e}排出（世界全体のGHG排出量の12%）*
- 上位1%の世帯は一人当たり平均110tCO_{2e}排出（世界全体のGHG排出量の17%）*
- 高排出世帯はすべての主要経済国に存在し、国内および国家間で大きな不平等が存在する。

*世帯消費と公共・民間投資の両方に関連する排出量を世帯に割り当て、世帯をGHG排出量（LULUCFを除く）でランク付けしたもの

COP26グラスゴー気候合意は各国に2030年目標の「再検討と強化」を求めた

Figure 3.1 Effect of new or updated NDCs on 2030 GHG emissions relative to initial NDCs



NDC=国別の温室効果ガス削減目標

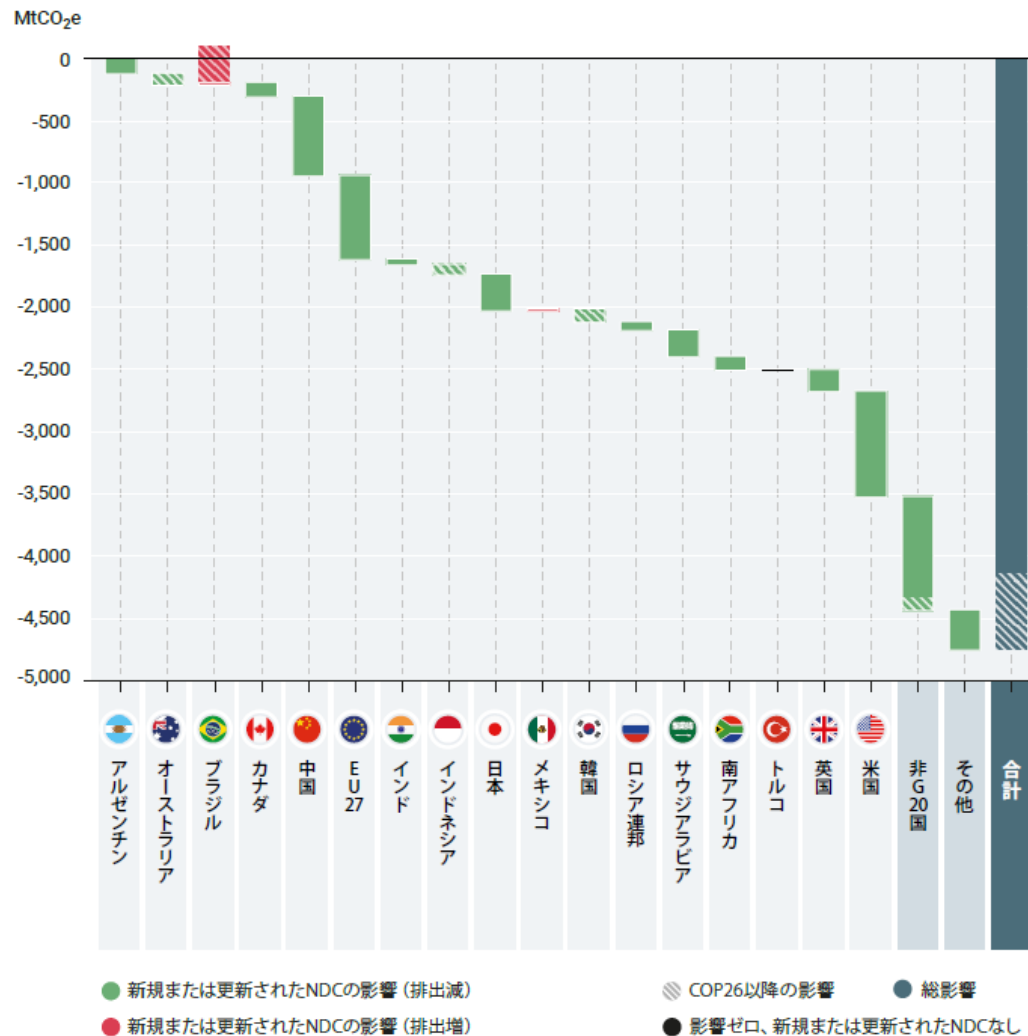
- ✓ 条件付き目標：外国から必要な資金や技術支援等が得られた場合
- ✓ 無条件：自助努力

- 最初のNDCと比較して2030年排出量が低い新規または更新されたNDC
- 最初のNDCと比較して2030年排出量が高い新規または更新されたNDC
- COP26以降に更新されたNDC
- 最初のNDCと比較できない新規または更新されたNDC
- 新規または更新されたNDC提出なし

- 2020年1月1日～2022年9月23日の間に、166カ国が新規または更新されたNDCを提出した。これらの国は、世界のGHG排出量の約91%を占め、COP26時点の152カ国を上回った。
- 最初のNDCと比較して、GHG排出量目標を含む割合が多く、セクターやガスのカバー範囲が広く、無条件の要素を含むものが増えた。

各国に2030年目標の「再検討と強化」を求めたが、COP26以降の進捗は極めて不十分である

図 ES.2 最初のNDCとの比較による新規および更新された無条件のNDCの2030年における世界のGHG排出量への影響



- 新規または更新された無条件NDCが完全に実施された場合、当初のNDCと比較して2030年までに4,800GtCO_{2e}の年間追加削減をもたらすと推定される。
- COP26以降の進捗は約500GtCO_{2e}。主に豪・ブラジル・インドネシア・韓国から提出された新規または更新されたNDCによるものである。

ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域／プログラムマネージャー

津久井 あきび

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関